はじめに

日本海事センターでは、このたび、「JMC REPORT 2024」を発刊いたします。

当センターは、2007 年の設立以来、海事社会の中核的な公益法人として、海事関係の調査・研究に日々取り組んでいます。

また、毎年度、12 億円を超える補助金を海事公益活動を行う団体に交付する助成事業を行っており、海洋少年団の活動や船員災害防止事業、海上保安庁の音楽隊演奏活動など、海事関係の公益的な活動に対して支援しているところです。

さらにはアジアで唯一の海事関連の専門図書館である海事図書館の管理運営も行っています。

このような当センターの活動に関して、多額の寄付金を拠出いただいている日本船主協会及び日本水先人連合会をはじめ、多くの関係者の方々に知っていただく機会を増やすため、今年度の活動成果等をとりまとめました。

本レポートは、関係者の皆様にご利用いただいているホームページやメールマガジンとあわせて、海事センターの研究員が業界紙等に寄稿したレポートや講演資料、さらには海事公益支援事業の内容をまとめており、当センターの調査・研究の成果や海事公益支援事業の概要をわかりやすくお伝えするものです。

さて、日本の海事産業を取り巻く国際情勢は流動化・不確実化の度合いを強めており、日本の海事産業は迅速かつ的確な対応を求められています。

その一つが、国際海上輸送に関わるグローバルサプライチェーンの混乱です。ロシアのウクライナへの軍事侵攻が続き、紅海におけるフーシ派による商船への攻撃、さらにパナマ運河の渇水に伴う一時的な運航制限など、日本商船隊の安定的な運航の確保が大きな課題となっています。

また、2050 年カーボンニュートラルに向けて国際海事機関（IMO）の第 83 回海洋環境保護委員会（MEPC）において 4 月に GHG 削減に向けた中期対策が承認されました。また、これに先行して EU においては排出量取引制度(EU-ETS)が適用されるなど地域規制が導入され、造船業においても CO2 ゼロエミッションを目指して次世代船舶の開発が急ピッチで進められています。

さらには、自動運航船の実用化への取組など、海事分野のイノベーションの動きが加速するとともに、洋上風力発電など新分野の展開も進みつつあり、これらの新しい展開に対応する計画的な海事人材の確保・育成が重要な課題となっています。

当センターでは、こうした一連の動向を踏まえ、引き続き、海事社会を取り巻く諸々のニーズに即した調査研究を行うことにより、国際ルールの整備に向けた審議等への我が国の主導的な役割の遂行へ貢献するとともに、海事社会の課題解決に向けた産学官の取組に積極的に貢献しているところです。

また、2007年から開催してきた「海事立国フォーラム」に加え、2022年から新たにオンラインによる「JMC 海事振興セミナー」を開催しており、昨年度は3回にわたり JMC 海事振興セミナーを開催しました。

「海事立国フォーラム」については、昨年10月に北海道苫小牧市で、今年 2 月に東京都内でそれぞれ開催しました。いずれも当センターのホームページで開催結果を閲覧できます。

なお、日韓の研究機関（(公財）日本海事センター、(一財）運輸総合研究所、韓国海洋水産開発院（KMI)、高麗大学海事法研究センター（KUMLU)）の間で海事分野における相互協力及び交流促進を目的とした MOU（了解覚書）に基づき、昨年9月に釜山で第2回交流セミナーを開催し、本年 4 月にはソウルで第 3 回交流セミナーを開催しました。

今後、JMC 海事振興セミナーについては、研究員が取組んでいる研究テーマを中心としつつ、海事関係者等の関心の高い重要なテーマについても取り上げ、多くの関係者の参加を頂き、課題と取組の共有、さらに課題解決に向けた提言等も話し合えるセミナーとして続けていくほか、最新のトピックス等を中心として広く海事に関する理解を深めてもらうための海事立国フォーラム、さらには国際機関との連携によるシンポジウム等も引き続き開催していく所存です。

さらに、海事図書館についても、利用者利便の向上や情報発信の強化に取り組んでいるところです。

収蔵している図書・資料は、海事関係の図書約 33,000 冊、海事関係雑誌約 800 種以上に及び、専門家から一般向けの図書や雑誌に至るまで幅広く取り揃えた専門図書館ですので、ぜひご利用いただければと思います。SNS での情報発信やテーマ展示なども行っているところです。

「JMC REPORT 2024」の発行に伴い、当センターの役職員一同、関係者との連携・協働をより緊密なものとし、海事関係の産官学のプラットフォームとしての活動を続けて参ります。

今後とも当センターに対し一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

以上

目　次

【2024 年度の調査研究・政策提言等の活動実績】 ……9

【研究員/専門調査員の紹介】 ……31

【調査・研究事業成果】 ……37

１．　海運環境政策

1)「洋上風力発電に係る作業員輸送規制に関する動向」
（日本海事新聞 2024 年 5 月）
研究員　坂本　尚繁 ……41

2)「海運と気候変動①　日本の海運、脱炭素化への挑戦」
（ガスエネルギー新聞 2024 年 11 月）
主任研究員　森本　清二郎 ……47

3)「海運と気候変動②　脱炭素化へ、多様な選択肢を追求」
（ガスエネルギー新聞 2024 年 12 月）
主任研究員　森本　清二郎 ……48

4)「海運と気候変動③　IMO 規制、効率改善から燃転へ」
（ガスエネルギー新聞 2025 年 2 月）
主任研究員　森本　清二郎 ……49

5)「海運と気候変動④　ライフサイクル評価で燃転を」
（ガスエネルギー新聞 2025 年 3 月）
主任研究員　森本　清二郎 ……50

6)「海運と気候変動⑤　EU、海運分野で進むカーボンプライシング」
（ガスエネルギー新聞 2025 年 3 月）
主任研究員　森本　清二郎 ……51

２．　船員政策

1)「フィリピンの船員マグナ・カルター―その成立と乗船実習―」
（日本海事新聞 2024 年 10 月）
上席研究員　野村　摂雄
専門調査員　益田　雄真 ……55

2)「韓国の船員教育・海技資格制度」
（日本海事新聞 2024 年 12 月）
主任研究員　野村　摂雄
専門調査員　益田　雄真 ……61

３．　海運政策

1)「台湾のトン数標準税制」
（日本海事新聞 2024 年 4 月）
上席研究員　野村　摂雄
元専門調査員　王　盈文 ……69

2)「トン数標準税制：スイスにおける議論」
（日本海事新聞 2024 年 6 月）
上席研究員　野村　摂雄
専門調査員　益田　雄真 ……75

3)「経済安全保障と外航海運」
（運輸と経済 2024 年 6 月）
上席研究員　中村　秀之 ……81

4)「台湾有事と日本の国際海上輸送」
（日本海事新聞 2024 年 7 月）
上席研究員　野村　摂雄
チェコ国防大学准教授　細田　尚志 ……87

5)「IMO 第 111 回法律委員会の審議の結果と動向」
（日本海事新聞 2024 年 8 月）
上席研究員　中村　秀之 ……91

6)「長崎県における海事産業の概況」
（日本海事新聞 2024 年 9 月）
研究員　後藤　洋政 ……97

7)「万国海法会第 44 回国際会議が東京で開催される」
（日本海事新聞 2024 年 11 月）
上席研究員　中村　秀之 ……103

8)「国際海事機関（IMO）：その歴史と役割・機能（前編）」
（日本海事新聞 2025 年 2 月）
上席研究員　野村　摂雄
専門調査員　北島　佑樹 ……109

9)「国際海事機関（IMO）：その歴史と役割・機能（後編）」
（日本海事新聞 2025 年 3 月）
上席研究員　野村　摂雄
専門調査員　北島　佑樹 ……115

４．　海上荷動き・国際物流

1)「主要コンテナ航路の荷動き動向（速報値）」
（日本海事センター2024 年 4 月～2025 年 3 月発表）
研究員　後藤　洋政 ……123

2)「パナマ＆スエズが同時に通航支障　影響は限定的でも長期化懸念」
（週刊エコノミスト 2024 年 4 月 16・23 日合併号）
研究員　後藤　洋政
客員研究員　松田　琢磨 ……135

3)「スエズ運河リスクと東アジアのグローバル・サプライチェーン～代替ルートとして注目が集まる中欧班列～」
（日本海事新聞 2024 年 7 月）
客員研究員　福山　秀夫 ……141

4)「発展する西部陸海新通道と中老班列～変貌する東アジア物流～」
（日本海事新聞 2024 年 11 月）
客員研究員　福山　秀夫 ……147

5)「東アジアのグローバル・サプライチェーンの進展
～コロナ禍から紅海リスクまでの 5 年間の総括と展望～」
（日本海事新聞 2025 年 2 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····153

5．　学会、講演会等における論文・研究発表、講演関連

1)「中国の一帯一路の現状と展望 －グローバル・サプライチェーンの視点からー」
（第 4 回岡野龍太郎塾 2024 年 4 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····163

2)「洋上風力に係る航行安全の仕組みに関する国内外の現状等」
（REASP（(一社）再生可能エネルギー長期安定電源推進協会）洋上風力委員会検討会 2024 年 4 月）
研究員　坂本　尚繁 ·····191

3)「グローバル・サプライチェーンの最適化に向けた国際海運の課題と将来展望」
（中国物流研究会 2024 年 4 月例会）
客員研究員　福山　秀夫 ·····207

4)「国際海運におけるチョークポイントの概況－スエズ運河、パナマ運河を中心にー」
（第 9 回 JMC 海事振興セミナー2024 年 5 月）
研究員　後藤　洋政 ·····219

5)「日本の海運強化策」
（第 10 回韓国の海運・造船・ロジスティクス産業安定化フォーラム 2024 年 5 月）
上席研究員　野村　摂雄 ·····233

6)「一帯一路とグローバル・サプライチェーンの現状と展望
～一帯一路はユーラシアの国際物流をどのように変えたか～」
（第 64 回比較経済体制学会全国大会 2024 年 6 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····241

7)「洋上風力発電に関する国内外の動向－船舶の航行安全確保の取組みを中心にー」
（首都港連　港湾基礎研修 2024 年 7 月）
研究員　坂本　尚繁 ·····263

8)「中国「一帯一路」構想の現状 ～特に、欧州と中国の鉄道輸送を中心に～」
（中国ビジネス事情研究会／日中関係学会 2024 年 8 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····293

9)「今注目を浴びている中国・欽州港とベトナム・カイメップチーバイ港における取組と物流網の変貌」
（第 11 回 JMC 海事振興セミナー2024 年 9 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····311

10)「国際海運における GHG 削減の取組と次世代燃料への転換」
（第 34 回海事立国フォーラム in 北海道 2024 年 10 月）
主任研究員　森本　清二郎 ·····327

11)「「一帯一路」構想の現状と展望～欧州と中国の国際複合輸送の視点から～」
（立命館アジア・日本研究推進プログラム 2024 年度第 4 回研究会 2024 年 10 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····337

12)「中国・欽州調査報告」
（中国物流研究会 2024 年 10 月例会）
客員研究員　福山　秀夫 ·····361

13)「東アジアのサプライチェーンの拡大と国際コンテナ港湾の変貌」
（日本海事センター調査研究成果報告会 2024 年 11 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····395

14)「海上コンテナ輸送の動向と取り巻く環境の変化」
（Port X オンラインセミナー2025 年 3 月）
研究員　後藤　洋政 ·····415

15)「国際海運における GHG 排出削減に向けた政策動向と代替燃料・代替エネルギーへの転換に関する今後の展望について」
（日本計画研究所講演会 2025 年 3 月）
主任研究員 森本　清二郎 ·····435

16)「洋上風力発電と海運 －航行船舶との調整に係る取組みを中心に－」
（日本海運集会所セミナー2025 年 3 月）
研究員　坂本　尚繁 ·····451

17)「フィリピン人船員のマグナカルタ（船員マグナカルタ）について」
（日本海事協会神戸支部木曜会 2025 年 3 月）
上席研究員　野村　摂雄 ·····489

18)「ポストコロナとウクライナ戦後の東アジア国際物流ネットワークの進展－国際複合一貫輸送の視点から－」
（日本海運経済学会国際交流賞受賞 2024 年 10 月）
客員研究員　福山　秀夫 ·····501

19)「海洋法秩序における私的基準としての船級規則」
（国際法外交雑誌第 123 巻第 4 号 2025 年 1 月）
上席研究員　中村　秀之 ·····533

20)「国際海運における脱炭素化に向けた動向」
（日本港湾経済学会関東部会 2025 年 3 月）
主任研究員 森本　清二郎 ·····555

21)「Sea Lane Security in the Indo-Pacific Region」
（第 14 回海運・造船・物流促進および安定化フォーラム 2025 年 5 月）
上席研究員 中村　秀之 ·····565

【海事公益支援事業】 ·····589

【海事図書館事業】 ·····631

【参考資料　フォーラム・セミナー概要等】 ·····661

おわりに ·····767